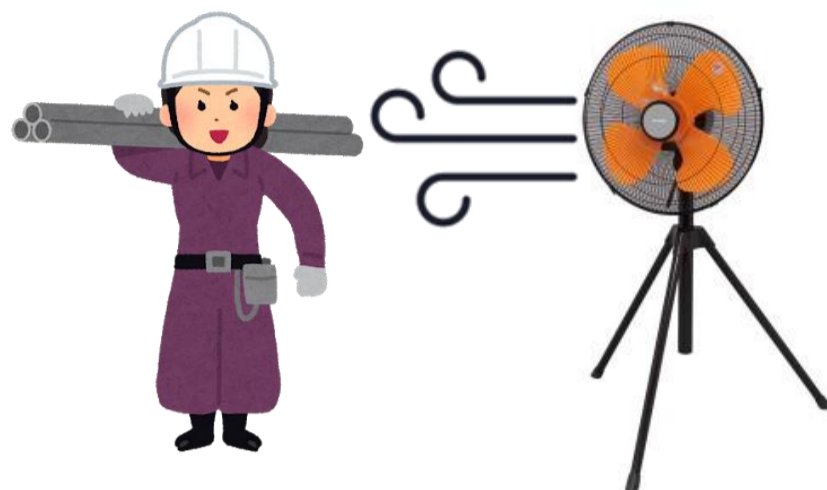


熱負荷作業における熱負荷低減対策

熱負荷作業は

前日の安全・作業打合せで作業と場所を特定します。

- ① 作業場所に工業扇等を配置して風を当てる。
- ② 現地KY時にペアリング（見守り人）を決め、互いに異変がないか、確認・監視を行う。
- ③ 場所ごとに作業員と協議し、休憩サイクルを短くするよう、見直しを行う。
- ④ クーラーボックスに保冷剤、タオル等を入れて体を冷やせる設備を設ける。
- ⑤ JV職員・一次会社職員は午前・午後各2回以上現地にて対策がされているか確認を行う。
- ⑥ WBGT値にとらわれることなく協力会社と相談の上、作業の中断も検討する。



15分作業
→10分休憩

